

児童が「分かる！できた！」と実感できる算数科授業の改善
～見通す段階と習熟の時間の工夫を通して～

宮崎県日向市立塩見小学校 鮫島 雅朋

I 主題設定の理由

宮崎県では、平成28年から平成30年にかけて、「子どもの学びを高める“ひむか”の授業づくり推進事業」において、「分かる！できる！」まで教えようをキーワードに、「個々の教師の授業に対する」4つのチェックポイントと「学校の組織的対応に対する」4つのチェックポイントの4+4をもとに、授業改善に取り組んできた。

本校においても平成29年度から、算数科の授業において4+4のチェックポイントをもとに、授業改善に取り組んでいる。その中でも特に、「1 児童一人一人の理解度を1単位時間の授業の中で評価し、定着や習熟を図る時間が確保されているか?」、「3 授業内容は児童の実態にマッチしているか?（平均を下回る子供も理解できる内容か?）」の2点に課題があると捉え、重点的に取り組むこととした。

また、ある民間企業の方との話の中で、次のような話を聞いた。

「表計算ソフトを使用する際、ソフトを当てにしているため、数字の入力間違いに気が付かず作業を進める社員が多い。ある程度計算の結果に見通しを立てるようにならないと、ミスが増える。学校では、そういうことを教えてほしい。」

このことから、結果を見通すことは、実社会の中で必要な力であることを痛感した。

以上のようなことから、児童が見通しをもって課題に取り組み、習熟の時間を工夫することで、児童が「分かる！できた！」と実感し、学習した内容が確実に定着すると考え、本主題を設定した。

II 研究の仮説

- 1 見通す段階において、解決方法の見通しとともに、答えの見通しをもって課題に取り組むことができれば、適切に課題を解決することができるであろう。
- 2 習熟の時間を十分に確保し、個に応じた指導をすれば、児童が「分かる！できた！」と実感し、学習内容を定着させることができるであろう。

III 研究内容

- 1 見通す段階の工夫
- 2 習熟の時間の工夫

IV 研究の実際

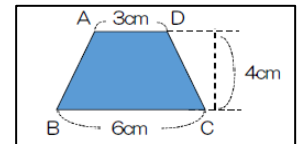
1 見通す段階の工夫

(1) 解決方法の見通し

算数科学習は、既習の内容を生かして、新たな課題を解決することができるように、各学年及び各単元の内容が構成されている。そこで、前時に学習した内容をまとめたもの（例：面積の公式）などを教室に掲示した。児童はその掲示物や前時のノートを振り返ることによって、解決方法について見通しをもつことができた。

(2) 答えの見通し

例えば、右のような台形の面積を求める学習において



は、長方形の面積をもとにして「 12cm^2 < 面積 < 24cm^2 」と答えの見通しを立てた。これにより、自力解決の時間においてこの範囲外の答えになった場合、自分の考えを再考する姿が見られた。また、話し合い活動の時間において、「その答えは大きすぎる。」など、児童が対話する姿が見られ、課題を適切に解決することができた。

2 習熟の時間の工夫

(1) スモールステップによる習熟

習熟の時間を、毎時間10分程度設定し、練習問題を下のように3段階に区切って取り組ませた。

- | |
|----------------------|
| ア 教科書の問題を2～3問→教師が丸付け |
| イ 教科書の残りの問題→自分で丸付け |
| ウ 計算ドリルやプリント→自分で丸付け |

アの段階で児童の学習の定着状況を把握するとともに、個別指導にあたった。これにより、算数が苦手な児童に対して習熟を図ることができた。

V 成果と課題 (○：成果、●：課題)

- 解決の見通しや答えの見通しをもって、課題に取り組んだことで、児童が適切に課題を解決することができた。
- スモールステップの習熟を取り入れたことで、児童が意欲的に取り組み、学習内容の定着を図ることができた。
- 日常生活と結び付けた課題提示や量感を養う指導についても研究を深め、基礎学力の定着や活用する力を更に高めていく必要がある。